

学校における性の多様性に関する指導等の現状及び与謝野町の取組み

令和 6 年 7 月
(社会教育課 後藤昌典)

『学校における性的マイノリティー指導について』

1 R6 使用小学校教科書における「性の多様性の指導」に係る記載

- ア 現行学習指導要領（2020～）では、保健体育（3・4 年）「思春期には異性への関心が芽生える」ととどまる。「性の多様性」には触れず
- イ 今回、教科書 6 社が「性の多様性」を取り上げている。（同性パートナー証明制度の広がり。同性婚や選択制夫婦別姓の議論の広がり、等から）
- ウ 保健体育（3・4 年）「異性が気になる⇒『異性など、他の人が気になる』。異性と話したいけど恥ずかしい⇒『異性や好きな人と話したいけど恥ずかしい』」
- エ 道徳（3 年）「ペンギンの雄のカップルが卵を温める絵本（タンタンタンゴはパパ二人）」掲載
- オ 保健体育（5・6 年）「人によっては、自分の生まれた性別と、心の性別が一致しなかったり、同性の子を好きになったりすることもあります。」
- カ 道徳（6 年）「東京五輪の開会式での虹色の衣装の掲載で、『LGBTQ 等の問題について様々なメッセージを発信している』と紹介
- キ 社会（6 年）「現代日本について学ぶ部分で「性別の違いや性的少数者をめぐる差別もなくしていかなければなりません。」と記載
- ク 道徳（6 年）「アメリカ最高裁の女性判事の『同性婚を認める判決』に「多くの人を力づけた」。
- ケ 今回の教科書出版社の担当者は「異性への関心しか書かれていないと教員は教えづらい。今はそうじゃない子もたくさんいる。時代の変化を感じる。性的少数者として悩みを持つ子もいる。多様な生き方があることをつかんでほしい。現代社会にある性の多様性に目を背向けないでほしい。」と語る。

2 R7 使用中学校教科書における「性の多様性の指導」に係る記載

- ア 新学習指導要領（2021～）には LGBTQ（性の多様性）については盛り込まれていないが、教科書では 9 社が 6 科目で取り上げている。昨今の同性婚訴訟や男女制服の見直し等の社会的関心の高まりを受け、「性の多様性」を学ぶ機会が必要、との視点で掲載が増えた。
- イ 教科書で「LGBTQ（性の多様性）」に触れる記載があったのは、2017 年高校（家庭科、倫理）、2019 年中学校（道徳）で 4 社、2020 年小学校（保健体育）で LGBTQ の記述が登場。
- ウ 保健体育「『普通、常識、みんな言っている』、そんな声を耳にしたら『そうじゃない人もいるかもしれない』という発想をもって欲しい」（LGBTQ も働きやすい職場づくりを支援する団体にインタビュー掲載）
- エ 国語「ゲイであることを公表したロバート・キャルベンさんの文章」が記載
- オ 公民「同性カップルの宿泊拒否を違法とする国の見解を示し、多様な性意識を持つ人々が自分らしく生きるための取組の必要性」「性別に関係なく制服のスラックスをはけるようにした自治体の動き」の掲載
- カ 美術「同性カップルが描かれた生徒製作のポスター」の紹介

3 「文科省、生徒指導提要改訂版」(2022 改訂)における内容

- ア 第Ⅱ部第12章「性に関する課題」に、「性的マイノリティーに関する課題と対応」の追加で、「性的マイノリティーの児童・生徒への無理解・偏見をなくすよう教職員の理解促進の必要性」が明記。
- イ 「性的マイノリティーの大きな課題は、当事者が社会の中で偏見の目にさらされるなどの差別を受けてきたこと」「少数派であるがために正常と思われず、場合によっては、職場を追われることさえある」このような性的思考などを理由とする差別的取扱いについては、いまだに偏見や差別が起きている現状がある」
- ウ 「いじめ防止対策推進法の基本的な方針」に「LGBTQ についての教職員の正しい理解の促進や学校としての必要な対応について周知する」が盛り込まれた。また「人権意識の醸成を図ることが大切」として「(1) いかなる理由でもいじめや差別を許さない適切な生徒指導・人権教育を推進すること。(2) 性的マイノリティーの児童・生徒には、自身の状態を秘匿したい場合があることを踏まえつつ、日頃から相談しやすい環境を整えておくこと。(3) 当事者の支援は相談を受けた者だけで抱えこむことなく、組織的に取り組むことが重要。(4) 各場面における支援・取組例で、具体的対応策が説明されている。
また、文科省から教職員向けの周知資料として「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」(平成 28 年 4 月)が作成されている
- エ 「性的マイノリティーに関する学校外における連携・協働」では、当事者の保護者との関係、教育委員会等の支援、医療機関との連携、その他の留意点について明記されている。
- オ 今回の改訂では、性的マイノリティーだけでなく、発達障害や家庭環境、外国人等、多様な背景を持つ対応策について示され、「子どもたちの命を守ることを最重要とし、学校が安心して楽しく通える魅力ある環境となるよう」指針を示している。

4 与謝野町小中学校における LGBTQ (性的マイノリティー) への理解と配慮、支援について (R5, 6, 12、一般質問の教育長答弁より)

- ア 「心と身体学習・性についての学習」の中で、発達段階に応じた形で、「LGBTQ を理解すること」を目標とした学習に取り組んでいる。多様な性のあり方や、好きになる性・性的指向、心の性・性自認などについて学んでいる。
- イ 「LGBTQ に配慮した中学校の制服・体操服の見直し」について、学校と P T A とが一体となって協議・検討されてきた。橋立中学校では、令和 5 年度から新たな制服の着用が開始。加悦中学校と江陽中学校は令和 6 年度から開始。
- ウ 「P T A 家庭教育委員会の取組」として、ある中学校で保護者向けに「性の学び展」が令和 5 年 2 月に開催された。性について考えることの大切さ、多様な性について学ぶことの重要性を感じた、との感想が寄せられている。
- エ 「人権教育を基盤とした学校教育の推進」における計画的・継続的な人権学習の中で、今日的な人権教育としての、ネット差別や LGBTQ に関する学習をしている。
- オ 「LGBTQ に係る学校環境や校内体制的な配慮」。文科省の「性同一障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するきめ細かな対応等について」を踏まえ、LGBTQ に係る悩みや不安は全児童生徒に共通するものであり、学校の相談体制の充実に努め、相談しやすい体制づくりや雰囲気を整えることを進めている。